たから

財やちよ

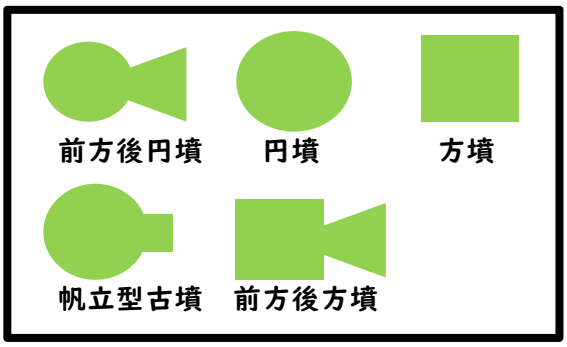
No. 11

2025. 5.12
（令和７年）

特集　市内の古墳

日本では、3 世紀後半から 7 世紀までの間、土を大量に高く盛り上げた墳丘を有するお墓が盛んに造られました。

この時代に造られた墳丘をもつお墓を「古墳」といい、日本には 10 万基以上の古墳が存在していると言われ、古墳を造るのには大変な労働力が必要であったことから、古墳は当時の階層の高い人によって造られました。



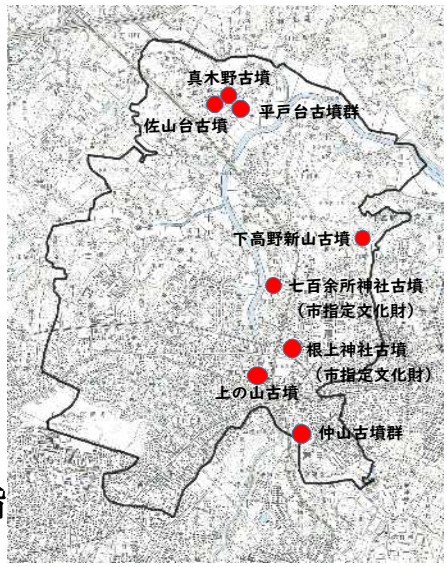
古墳の種類

古墳と言えば、鍵穴の形をした「前方後円墳」が有名ですが、その他にも「円墳」、「方墳」といった形の古墳があり、時代や権力の大きさによって様々な形の古墳が存在します。古墳の周りには埴輪（はにわ）が並べられていることもあり、市内でも人型や円筒型の埴輪が出土しています。

また、古墳時代の有力者のお墓である古墳には、古墳に埋葬された人物の力の強さや、あるいはお葬式をした後継者の権威をあらわすような品物（副葬品）が数多くおさめられます。副葬品は、古墳をつくった人びとの考えや価値観をそのまま伝えるものと言え、時代や地域によって様々な副葬品（鏡、武具、装身具、玉類等）が存在します。その多くは後の時代に盗掘などによって副葬品が失われるケースも多いことから、現在残っている副葬品は当時の状況を知る上で大変貴重な文化財です。市内には指定文化財となっている 2 基の古墳（根上神社古墳、七百余所神社古墳）の他、残存している古墳がいくつかあります。

埴輪（桑納 2 号墳出土）

指



現存する市内の古墳

副葬品
（鉄刀は平戸台 2 号墳，それ以外は村上 1 号墳）

○七百余所神社古墳（市指定）

この古墳は、市の中央部、新川東側の標高約 24 メートルの台地上に所在している円墳です。

七百餘所神社古墳は、市の文化財に指定された際には、古墳の詳しいことがよくわかっていませんでしたが、令和２年に行われた調査により、周溝（しゅうこう：古墳の周りに掘られる溝）が３か所で検出されました。この調査結果から、この古墳が直径 21m、高さ３mの円墳であることが判明しました。

残存している古墳でも多くは一部が削られている状態のものもある中で、この古墳は七百餘所神社の境内に良い状態で保存されています。

発掘調査の結果では、周溝は古墳時代前期（３世紀～４世紀）の竪穴建物（たてあなたてもの：地面を掘り下げて床面とした建物）の跡が埋まった土を掘り込んでおり、古墳の形態・規模からも古墳時代中期から後期（５世紀～７世紀）の古墳と考えられます。副葬品等は見つかっていないため、どのような人物が埋葬されているのかはわかりません。

七百余所神社古墳

周辺地図

○根上神社古墳（市指定）

この古墳は、新川の沖積地に面した標高約 25 メートルの台地上に所在している前方後円墳です。前方後円墳は一般的に前方部（四角い部分）は祭祀を執り行う場、後円部（丸い部分）はお墓と言われています。平成 10 年に前方部、平成 12 年度には後円部の部分的な発掘調査が行われ、周溝を囲む溝の一部が検出されています。その結果、全長 50 メートルの市内で最も大きな前方後円墳であることがわかりました。このことから、この古墳に葬られた人はこの地域で大きな権力を持った豪族ではないかと考えられています。

前方部と後円部は一部が削られて根上神社の社殿が建てられていますが、原形をよく留めています。前方部の高さは 2.5 メートル、後円部の高さは 3.5 メートルで、後円部を北にして造られています。本格的な発掘調査が行われていないため、お墓の構造などは明らかではなく、造られた正確な年代を知ることはできません。しかし、全体の形が 7 世紀初め頃の「最後の前方後円墳」と言われる印旛郡栄町の浅間山古墳に似ていること、前方部の部分調査で 6 世紀の終わり頃の特徴をもつ土器が出土したことなどから、その頃に造られた古墳であると推測されます。

根上神社古墳

周辺地図

発行　八千代市教育委員会
文化・スポーツ課　文化財班
℡047-481-0304

過去の「財やちよ」はこちらから